平成30年7月豪雨で行った、被災地支援の記録。



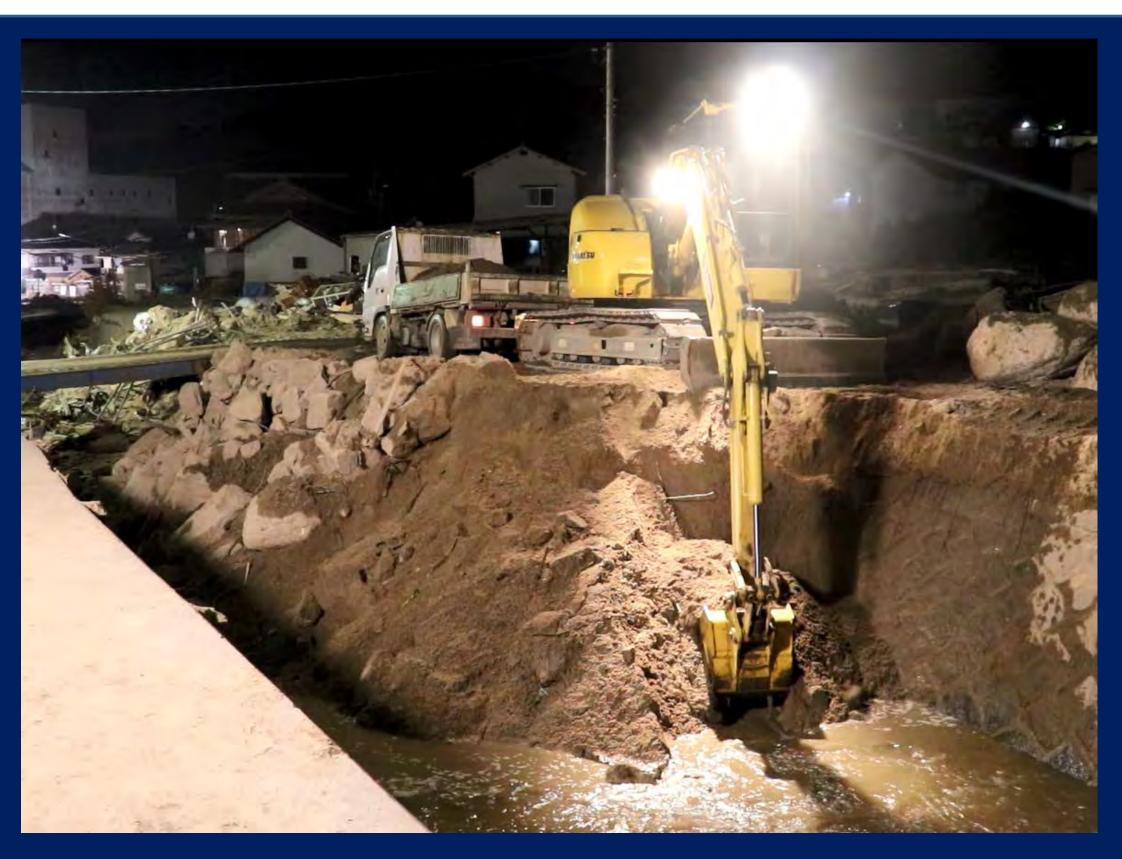
# 被災した自治体へリエングを派遣

中国地方整備局では、被災した自治体のニーズを把握するため 緊急災害対策情報連絡員 (リエゾン)を派遣し、様々な支援活動を調整。また中国地方整備局が把握している被災情報や復旧情報を見える化し自治体に共有した。リエゾンは、17自治体・1機関(広島県内9自治体・1機関、岡山県内4自治体、山口県内2自治体、鳥取県内2自治体)に対し、被害発生のおそれがあった7月5日から8月31日まで、延べ794人・日が派遣された。



倉敷市役所での復旧調整

# 河川土砂撤去、道路啓開、被災自治体を支援



直轄の河川・道路の緊急復旧工事に目途のたった7月20日より、自治体から要請のあった河川土砂撤去、道路啓開に着手。被災地において活動している自衛隊、消防、自治体と調整を図りながら、被災地の復旧支援を行った。









被災地では復旧作業等に伴う車両走行時の粉塵が顕著化。

全国から集結した路面清掃車、散水車を岡山県倉敷市真備町はじめ、被災地に派遣した。



# 

島しょ部や陸路からのアクセスが困難な断水地域に向けて、中国地方整備局等が所有する船艇により、飲料水等の緊急物資を輸送。



## 知らせたい「通れる道」の情報を

大雨による事前通行規制や、道路災害による通行止めなどが点在、長期 化したことで、一般道路利用者や輸送会社等から物資輸送や医療介護に関連した 通行可能ルートの問い合わせが増加。

このため規制情報等に関する情報発信から県道を含めた通行止め箇所と通行可能 ルートが1枚で分かる『**通れるマップ**』を作成し、変化するニーズに対応。

